

目的を明確にした情報教育研修会



令和2年度から教育課程に位置付けられることとなった「プログラミング教育」、また日々進展する情報化社会へ対応するための「情報モラル」について、指導者の資質向上を図るための研修会を開催しました。どちらの内容も、直近の課題として求められているところですので、当日の様子から何らかのヒントを得ていただければと思います。

小学校プログラミング教育 授業づくり研修会 (平泉小 R1.6.7)

～研修の概要～

- ①講義『プログラミング教育の導入について』
(講師 総合教育センター 主任研修指導主事 三田 正巳先生)
- ②プログラミング教育を取り入れた算数の提案授業(5年)
(授業者 総合教育センター 研修指導主事 太田 崇先生)
- ③プログラミングソフトを使った演習と協議

～授業の様子～

○子ども達は「人間ロボット(友達の指示通りにマスを動く)」を体験し、プログラムの正誤により成功したり失敗したりすることを学びました。



○実際にプログラミング教材「プログラム」を使い、平行四辺形の作図(4年教材)に取り組みました。うまくいかない児童もいましたが、そうした失敗から「さっきは～で失敗したから次は～かな」と思考する姿が見られました。



～参加した先生方の感想～

- 今日のような流れであれば自分でもできそう。
- 児童の活動の様子から、指導の具体が見えてよかった。
- 実施する教科、時数を知ることができ、見通しがもてた。
- まずはやってみなければならぬと感じた。

- △動作環境を整えるのが大変そう。
- △もっと教員の研修が必要である。



指導者が意識したい点

- ☆子ども達にプログラミングの技能を習得させるためのものではない。
- ☆各教科のどの単元、どの場面でプログラミングを取り入れれば効果的かを吟味していく。
- ☆プログラムに取り組んだりコンピュータを活用したりすることの楽しさや面白さ、達成感を味わわせることが重要である。



学習内容を指導する1つのツールが『プログラミング』であり、1つのものを作り上げるための1つ1つの手順(=プログラミング的思考)を大事に扱っていきます。

情報モラル教育 指導者養成研修会 (平泉中 R1.7.3)

～研修の概要～

- ①授業参観「情報モラル(1年)」
(授業者 平泉町立平泉中学校 教諭 石澤 祐治先生)
- ②授業研究会
(助言者 総合教育センター 主任研修指導主事 千田 満代先生)
- ③情報モラル教育の進め方に係る講義・演習
(講師 総合教育センター 主任研修指導主事 千田 満代先生)

～研修の様子～



○実際にスマートフォンを使って掲示板に書き込みを行い、SNSを使う時に気を付けなければならないことを体験的に学習しました。

○講義・演習では、情報モラル教育の進め方や、授業づくりについて学びました。情報交換では、各校の実態等について積極的に交流を図りました。



～参加した先生方の感想～

- 実体験を組み込んだ授業の必要性を感じた。
- 自校ではどのような指導をしていくのか、ネット利用に悩む生徒への個別対応を考えることができた。
- 授業だけではなく教育活動全体を通して、根気強く情報モラル教育に取り組んでいく必要があると感じた。

指導者が意識したい点

- ☆児童生徒の心の発達段階や知識の習得、理解度に応じた適切な指導が大切である。
- ☆地域や学校の実態に応じて系統的なカリキュラムを作成すること、全教員がその内容を理解して指導することが大切である。
- ☆学校教育において、情報モラルに体系的に取り組む必要がある。